

↑日本と中国は軍事衝突するのか

白井 短期的には良くない兆候ばかりが目につくのが現実です。尖閣諸島を発端として、日本と中国のあいだで軍事衝突が起こるのかどうかが重要な課題ですよ。もし不幸にして起きてしまった場合、果たしてどのぐらいの規模で、どういうかたちの戦争になるのか。純軍事的な側面から見た場合、いろんな説がありますよね。

笠井 どちらが軍事的に強力なのかという話ですね。

白井 自衛隊筋から出てくる情報でも、まったく正反対なものがあったりします。中国はものすごく軍事費を使っていると言うけれども、あれは軍備の近代化の遅れを一生懸命取り戻そうとしているからで実は弱いんだという説もあれば、他方では人民解放軍のほうが強いという説もあります。

おそらくこれにかんしては、専門家でも分からない部分が多いのではないかと思うんです。要するに、やってみなければ分からない。ただ持久戦になって長期化した場合、日本が勝ちれるとは思いません。本当に危険だと思うのが、日本がやっている矢継ぎ早の安全保障政策強化によって、中国における強硬派の抑えが利かなくなるのではないかということです。特にダボス会議の基調講演での安倍の発言が非常に問題視されましたが、あ

れて「日本の国家元首はどうやら覚悟を決めたらしいぞ」と世界的に受け取られる可能性があるわけですね。中国の側も、そう受け止めかねない。

笠井 ダボス発言で僕だって思いましたから、安倍はやる気満々だなと。

白井 それで軍事衝突が不可避となれば、その準備を粛々と進めていくことになるのではないでしょうか。加えて、中国でのシビリアン・コントロールの実効性がどれほどのものなのか、どうもよくわからない。習近平が軍を事実上抑えきれているのかどうか。今、中国の共産党員の幹部層のスクャンダルがたくさん暴露されてますよね。愛人が云々と不正蓄財とか、そういう話がかんしてきているわけですけど、人民解放軍にかんしてはそういう話が今のところ少ない。人民解放軍の高官も十中八九、そういう不正蓄財等々をやっているはずなんですけど、表沙汰になる度合いが低い。結局、スクャンダルの暴露も権力闘争だから、共産党と軍の間でも駆け引きが展開しているようです。中国における軍の政治力というのは中国に住んでいてもよく分からないらしいけれど、それはかなり強力であるようです。

笠井 尖閣問題をめぐる第二次日中戦争、日清戦争まで算えれば第三次日中戦争になりませんが、それは起こるのかどうか。危険性は無視できない程度には高いと、僕は考えています。また、もしも戦争が起これば、古典的な国家間戦争ではなく二一世紀的な世界内戦の